

海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	久保 絵美 印
所属機関	国立がん研究センター研究所
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	欧州癌治療学会議 (ESMO)
渡航期間	自 平成 29 年 9 月 6 日 至 平成 29 年 9 月 14 日
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	示説発表: Increased mutation burden in high-risk lung tissues: toward precision cancer risk diagnosis
<p>研究成果 (要約: 800 字)</p> <p>欧州癌治療学会議で、演題名 Increased mutation burden in high-risk lung tissues: toward precision cancer risk diagnosis で発表し、世界のがん研究者と討論することができた。この研究成果は、高発がんリスクの正常肺組織には、タバコ喫煙への曝露により突然変異が蓄積していることを初めて示したものであり、精密ながんリスク診断への新規のアプローチにつながると考える。また、今後の肺がんの基礎研究に有用な情報も収集することができた。バイオマーカー関連では、Gandara DR らによる、がん免疫療法のための血液ベースのバイオマーカーとして血中 tumor mutational burden が有用であるという発表や、Li Y らによる、髄膜転移を認める非小細胞肺癌患者の髄膜転移の診断において、髄液循環腫瘍細胞をリキッドバイオプシーとして用いるのが有用であるという報告を聴講した。また、肺癌の治療関連では、Paz-Ares L らが病期 III の切除不能局所進行非小細胞肺癌患者を対象に化学放射線療法後のデュルバルマブ投与を評価する第 III 相二重盲検プラセボ対照試験 (PACIFIC 試験) の結果を報告し、併用化学放射線療法を施行済みの病期 III の切除不能局所進行非小細胞肺癌患者においては、デュルバルマブが新しい治療選択肢として期待できることが示された。また、Ramalingam S らが EGFR 変異型進行非小細胞肺癌患者における第一選択治療としてのオシメルチニブ vs 標準治療の EGFR-TKI (ゲフィチニブまたはエルロチニブ) (FLAURA 試験) の結果を報告し、オシメルチニブ群で進行または死亡リスクが 54% 減少し、生命予後の改善も示唆され、安全性も同等であった。これらの情報を役立て、今後も研究を継続する予定である。</p>	